

みず・みどり みまもり はぐくむ 森がすき

み〜も通信

水と緑の森づくり情報誌

冬

WINTER

2007.1
VOL.7

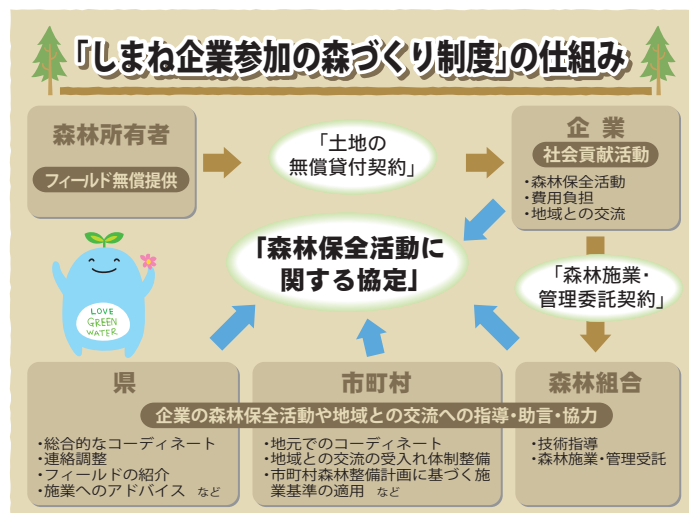


「しまね企業参加の森づくり制度」スタート

～第1号として山陰合同銀行と協定調印～

近年、木材価格の低迷や森林所有者の高齢化などにより、森林管理が行き届かず放置され荒廃する森林が増えています。そこで、島根県では、公益的機能を持つ森林は県民共有の財産と位置づけ、県民との協働による森づくりを進めています。このたび、多様な主体による県民参加の森づくりを一層進めていくために、企業が森林保全活動に参加しやすい環境を整備することを目的として「しまね企業参加の森づくり制度」を立ち上げました。

この制度による取組の第1号として、松江市西忌部町地内及び大田市大森町地内の森林において山陰合同銀行が行う森林保全活動について協定を締結しました。山陰合同銀行では、この2箇所の森林で今後10年間森林保全活動に取り組んでいきます。



11月29日(水)
県庁で行われた
調印式の様子。
左から、神谷光
夫大田市森林組
合長、竹腰創一
大田市長、澄田
信義知事、古瀬
誠山陰合同銀行
副頭取、松浦正
敬松江市長、狩
野文男松江八束
森林組合長

参加企業を募集しています。詳しくは県ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.shimane.lg.jp/ringyo/>

島根県

<http://www.pref.shimane.lg.jp/ringyo/mizumori/>
この季刊誌は「水と緑の森づくり税」による森づくりの取組を、県民の皆さまにお知らせするものです。

森づくりプロデューサー養成研修

新たに10名のプロデューサーが誕生しました！



県や関係機関、ボランティアグループ、森林所有者などと協力して、県民主体の森づくり活動の基盤づくりを進める「森づくりプロデューサー」の養成研修を行いました。

今年は、県内から12名の方々が応募され、2回にわたって行った講義や実習を終了した10名の皆さんに、「森づくりプロデューサー」としての委嘱状を交付しました。

「森づくりプロデューサー」は昨年度に委嘱された方々とあわせて、これで29名となりました。



「チラシに学ぶ企画術」

人を引きつけるチラシって、どんなチラシだろう？
世の中に出回っている様々なチラシから企画術を学びました。



日が暮れてからも続いた「企画書づくり」

「関心のない人を森に入ってもらうために」をテーマに、研修生全員が県民参加型事業を企画しました。



研修終了後委嘱状を交付しました。

（勲キープ協会の若林総務部長代理による個別アドバイスを熱心に聞く研修生）

今回 森づくりプロデューサーに委嘱された皆さん

洲濱 寿晴（松江市）	田中 賢治（松江市）	福岡 茂明（松江市）
響 繁則（奥出雲町）	岩崎 鈴江（出雲市）	岡田 邦博（出雲市）
竹下 健二（出雲市）	戸山 敬子（出雲市）	西尾 良一（出雲市）
松本 尚子（出雲市）		

今年も



歩いて

PR!

昨年に続いて、「水と緑の森づくり税」による島根県の取組を多くの皆さんに知っていただくために、「水と緑の森づくり」の“のぼり”片手に国道9号線などをPRしながら歩きました。

今年は、県職員など総勢16人の参加を得て、斐川町の「道の駅 湯の川」から、出雲市の出雲大社までの約21kmを、森づくり推進祈願を兼ねて6時間かけて歩きました。悪天候の中、全員が完歩しました。



森づくりのWAを広げるために みんなで情報交換

昨年12月10日(日)に、大田市の「あすてらす」で“森づくり・資源活用団体活動報告会”を行いました。

当日は、会場に準備した席を上回る参加者が集まり、急遽新たに席を用意するほどの大盛況となりました。

まず、松江市の「里山を育てる会」の下瀬敏会長から、自らの活動を事例とした特別講演をいただいたあと、これまでに、「森づくり・資源活用実践事業」の交付金を受け、「森づくりボランティア」「森づくり講座」「森林・都市交流」「木の利用講座」の取組を行った県内4つの団体から活動報告がありました。

会場に集まった約100名の参加者は、各地域で行われている活動に対して熱心に耳を傾け、メモを取っていました。



「里山を育てる会」(松江市)
下瀬 敏 会長



竹ポットを利用したドングリの植樹活動に取り組む「NPOアンダンテ21」(益田市)の廣兼義明専務理事。団体名の「アンダンテ」とはイタリア語で“ゆっくりと歩く速さで”という意味。



三瓶ダム上流の「げんこつ山」をフィールドとして、竹林の管理に取り組む「NPO緑と水の連絡会議」(大田市)の高橋泰子理事長。

最後に、島根大学生物資源科学部の西野吉彦教授から全体の報告を通した講評をいただきました。西野教授は、①“森林”と“食”を結び付け、思いっきり汗をかいて森づくり活動した後、石窯でじっくり焼いたピザなどの、いわゆるスローフードをみんなで食べるなどして、楽しく森づくり活動を行うこと、②いろんなグループとの交流を通じて新しいアイデアが広がっていくこと、③活動を進めていくうえで、大学などの機関を大いに利用することなど、今後の活動に活かせる適切なアドバイスをいただきました。



島根大学生物資源科学部
西野吉彦 教授



炭焼、パン焼、ピザづくりなどを通して、広島県の家族と交流を図る「理想の山里づくり実行委員会」(川本町)の下垣賢治代表。



地域を守る海岸防風林として、黒松の植林に取り組みながら、間伐材を使ったベンチを広場等に設置している「中須地区生活環境推進協議会」(益田市)の中尾攻会長。



会場からの質問に答える報告者



地域の情報コーナー

(Part1)

県央地域での取組



11月21日(火)に、邑南町立日和小学校緑の少年団の結成10周年記念植樹を行いました。

植樹の前には、森づくりプロデューサーの南原博文さんと西部農林振興センター県央事務所の林業普及員が、森林の重要性、植栽方法について話を紙芝居仕立てで行いました。

学校近くの山林で行った記念植樹では、地域のみなさんの協力を受けながらヤマザクラなどの広葉樹200本を植えました。



緑の少年団 結成10周年を 記念して 植樹しました



地域の森づくり ボランティアを 紹介します

大田市のNPO緑と水の連絡会議では、森づくり・資源活用実践事業を活用して、『げんこつ山プロジェクト』里山林整備活動を行っています。今年度からは環境教育プログラムを加え、温泉津小学校の児童を対象として毎月、環境・体験学習を実施しています。

また、世界遺産登録を目指す石見銀山地域において、放置竹林の拡大による家屋への被害、遺跡の破壊などの、地域の人々が抱える問題の解決に取り組んでいます。

遺跡にふさわしい景観はどうあるべきか、どうやって守っていくか、森林の保全方法や価値観を共有するため、「石見銀山 世界遺産を守る 森づくり」「竹やぶを竹林に」と題して、12月9日、10日にワークショップを開催し、ボランティア参加者による森林整備活動を行いました。

温泉津小学校でのワークショップ。中川重年先生のご指導でバームクーヘンを焼きました。利用したのは「げんこつ山」から子どもたちが刈ってきた竹です。子供たちが手に持っているのは、関根秀樹先生の指導により作った竹楽器。とても好評で、来年はバンブーオーケストラをやろうと盛り上がっています。



石見銀山（吉岡出雲墓所参堂）の竹を刈って、大田市仁摩町の株式会社大国竹取物語の協力でチップにしました。ふかふかの「かぐや姫ロード」の出来上がり。龍源寺間歩に行くときにはぜひ一度踏んでみてください。



「竹やぶを竹林に」ボランティアに集まった方々。雨もあがって作業がはかどりました。山がきれいになった成果を継続するために、来春はタケノコ処理のイベントを企画しています。



地域の情報コーナー

(Part2)

浜田地域での取組



地域の森林資源を活かして、 地域交流を図ろう！



浜田市にある「お水会（会長：松下 清）」について紹介します。お水会は、浜田市田橋町の里山をこよなく愛する人たちが、町の人たちに手つかずの自然を見てもらい、里山のファンを増やしたいと15年ほど前に作られた会です。

活動の代表的なものとしては、町内を巻き込んでの春の山菜狩りがあります。参加者は初回の30名から第6回目となる今回は80名へと増え、里山ファンの輪が広がっています。

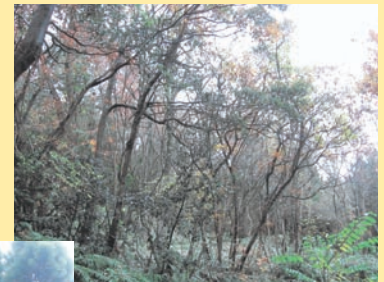


メンバーと町内の皆さん



山菜狩りの様子

今後の活動としては、会員所有の山林を利用した、秋のキノコ狩りや、原木の伐採から始まる椎茸の植菌体験、山菜などを調理する^{かまど}竈づくり、竈の燃料となる薪割り体験などの他、山林を開放して様々な活動を行うことが計画されています。



体験活動フィールド



活動拠点の納屋



また、今後の活動拠点として、会員の納屋を移築・改修し、内装には、会員の山から出された間伐材を地元の製材所で加工した板を使用する予定です。そして、ここを、単なるグループの活動拠点としてだけでなく、農山村交流から定住までを結びつけるグリーンツーリズムの拠点にしていきたいと思います。



み〜もくんのおしえてちょーだい “ペレットストーブ”って どんなもの？

VOL.3

さむーい冬がやってきました。

冬はやっぱり、こたつとみかん（ちょっと古いかな？）ですが、今、環境にもやさしく、心癒される暖房機として注目を浴びているのが、『ペレットストーブ』です。今回は、このペレットストーブについて紹介してみたいと思います。



木質ペレット

ペレットストーブの燃料となる木質ペレットとは？

製材工場などで発生する“おが粉”をドッグフードのような形に圧縮・成形した木質固形燃料です。

木の中にあるリグニンという物質の特性を使って固めるため、接着剤などの添加物は使いません。

木質ペレットも燃やすと、二酸化炭素（CO₂）を発生します。しかし、木を利用したあとに新しく植えれば、その木がCO₂を吸収してくれるため、CO₂が増えることはありません。

現在、増え続けているCO₂は、石油や石炭という形で地下に閉じ込められていたCO₂を地上に放出していることが主な原因です。

木質ペレットは、地球の温暖化を防ぐ効果のある国産のエネルギーのひとつです。



昨年11月に新居を建てられた斐川町のMさん。 新居で迎える初めての冬をペレットストーブで暖かく暮らしています。

Q：「ペレットストーブで過ごす新居はいかがですか？」

A：「ストーブの中で燃え上がる炎が見えて、灯油ストーブより心が暖まる感じがします。また、ペレットは自動供給ですので、ほとんど手がかかりません。」

Q：「子どもさんの反応はいかがですか？」

A：「ペレットストーブ本体は高温にならないので、子どもたちも安全に過ごせます。また、ストーブの上蓋を開けると芋などが焼けるので、焼き芋を楽しんでいます。」

Q：「思ったより不便に感じたことはありますか？」

A：「燃料のペレットを松江市内の取扱店まで買いに行くのが少し大変です。環境にも優しい燃料ですので、もっと身近なものになって欲しいと思います。」



兄弟そろってピース

出雲の街角で、ペレットストーブなどを紹介しています



J R出雲市駅北側に位置する扇町のアーケード商店街に、ペレットや薪など木質資源を使って身近な環境を守ることをPRするために、空き店舗を活用した市民の憩いの場ができました。

今年の3月までペレットストーブや県産材で作った椅子やテーブルなどが展示されていますので、一度のぞいてみてはいかがでしょうか。

